

# V i s i t ① (株)国際マイクロ写真工業社

## 品質と技術開発で国際

### 貢献できる会社をめざす

マイクロフィルムの専門業者としてスタートして高い信頼を得ている株式会社国際マイクロ写真工業社(東京都新宿区箪笥町4-3)は、1962年に記録資料のマイクロフィルムによる代替保存業務で創業。以後、50年以上にわたって各省庁所蔵の史料のマイクロフィルム化、東大史料編纂所所蔵の史料や、全国の歴史的貴重な史料の保存を手がけてきた。二代目代表の森松義喬氏に、経営理念や事業内容、『総合評価点制度』について話を伺った。

#### ◆高い技術開発力で入力業務のトップへ

株式会社国際マイクロ写真工業社は、1990年代以降、パソコンの普及によりマイクロフィルムとデジタル画像の相互変換にいち早く着手した業界のリーディングカンパニーである。

独自に開発した機器やソフトは枚挙に暇がない。同社は、長年产学開発に関わり、大学教授や産業技術総合研究所等との共同開発で「顧客のニーズ」に応えるための技術開発に取り組んできた。

「デジタル化に邁進しつつ、アナログ媒体双方を研究し、目の前の不可能を可能にするために、科学的な根拠を礎に技術開発に取り組んでいます。そして、アーカイブの分野で存在価値の高い媒体保存の企業を目指しています」と、森松社長は経営理念について語る。

また、特筆すべきことは、森松社長は外務省資料、法務省資料、防衛省資料の仕様書など、多くの仕様書作成に自らが関わっていることである。ニーズの確認ありきの仕様書の作成であるため、同社の都合の良いデジタルやアナログには拘っていない。

「私たちの使命は、日本中の貴重な記録史料を

森  
松  
社  
長



どうやって保存し、分散管理させるかにあります。複写業者は『出力』になりますが、私がしている仕事は『入力』です。万一の地震などの災害や戦争に備えて史料を分散管理し、そのための媒体変換業務です」とのことだ。

#### ◆複写業者は総合評価点制度を重視

サービス業者が官公庁で落札を得る上で、受注体制の構築は不可欠である。「それを証明する『総合評価点制度』が大切になります」と、指摘する森松社長。この制度は、簡潔に言えば、入札において「安からう。悪からう」を未然に防ぐことを目的としたものである。入札前に入札各社から技術提案を募って、提案内容が良い会社に対して高い得点を与える「技術評価点」を付与するというので、提案書には「仕様の熟知」「品質維持の体制」「個人情報の保護」「セキュリティ確保」「作業体制」「作業スケジュール」「プロマネ管理」等について明記する。つまり、技術評価点の高い会社を落札会社の第一候補にしていく合理的な制度である。

実際同社は、社会保険庁や国立国会図書館の大規模電子化プロジェクトの入札に参加し、高い技術評価点を取得し大量の電子化プロジェクトを成功させた実績がある。「総合評価点制度は、品質と受注価格を落とさずに業務させる意図があります。同時に国際競争力の高い会社へと向上させ、日本だけでなく国際的に貢献できる会社をめざす国側の意図も感じます。そのために官公庁対応のサービス業者は「総合評価点」を得るために品質と技術力の向上に日々努めることが大切です」と、森松社長は語る。